

---

平成 27 年

# 7 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

### 活力ある新産地づくり

#### 中濃農林■さといも さといもの先進地視察を実施

7月23日、中濃里芋生産組合は、さといも栽培の先進地である新潟県五泉市の先進地視察研修を行った。

今回の視察では、中濃地区よりも寒冷地である新潟県において、本来温暖な気候を好むとされるさといもが、気温の低い植付時にどのように栽培されているか、寒冷地でどのように貯蔵されているかをテーマに視察に臨んだ。

新潟県の産地では、植付時の寒さを克服するために透明マルチを利用したり、芽出した芋を植えつけるなどの工夫がされていた。また、収穫したさといもを各生産者が所有しているハウスで貯蔵することで寒冷地においても4月まで出荷できることを学んだ。

視察した生産者は、さらなる単収向上に向けて、新しい技術を取り入れようと熱心に新潟県の生産者の話を聴き、質問していた。

今回の先進地視察で学んだ内容を、農業普及課が取り組む新産地づくり地域活性化推進事業の技術実証ほに取り入れるなどし、円空さといもの産地がさらに活性化するように支援を行う。



【視察研修の様子】

#### 下呂農林■スイートコーン 地元高校生がPRイベントを開催

7月12、19日、下呂市スイートコーン研究会と県立益田清風高等学校（ビジネス会計科）との共催により、市内量販店にてスイートコーンの販売イベントを開催した（20名参加）。

生徒が萩原町のほ場にて栽培したスイートコーンを当日早朝に収穫し販売した。開始後約2時間で完売する盛況ぶりだった。

今後は収穫物をコーンポタージュやアイスクリームなどに加工し、売り出しを図っていく計画である。



【高校生によるPR販売】

### 売れる農畜産物づくり

#### 西濃農林■水稲 主食用米・飼料用米の収穫に向けた指導を実施

西濃管内の水稲の田植えは、4月10日の早期あきたこまち（海津市）に始まり、ひとめぼれ、コシヒカリ、あさひの夢、ハツシモ岐阜SLと順調に作業が行われ、6月下旬に終了した。主食用米の面積は約6,300ha、その内およそ6割がハツシモ岐阜SLである。また、飼料用米の面積は約1,040haとなり、昨年の583haから大幅に増加した。

7月までの生育は作期、品種でばらつきがあり、早期あきたこまちは5月の高温の影響を受け、出穂期は平年より3日程早くなり7月5日～18日となった。その後の品種は、ひとめぼれが平年並～やや早め、海津のコシヒカリは、平年よりやや遅くなっているが、垂井のコシヒカリの出穂期は早くなった。あさひの夢、ハツシモ岐阜SLは、田植え後6月の気温と日照が低く推移したため、茎数はやや少なめとなっている。

<管内各地で適期作業を指導>

品質の良い米の安定生産に向けて、6月から各地で現地研修会が開催されている。普及課からは、中干し等の水管理、昨年被害があった紋枯病の対策の実施について技術指導を行っている。また、大垣市墨俣で畦畔除草の労力軽減を目指した除草剤試験を実施している。

## 郡上農林■郡上市青空市場連合 **安全・安心な農産物づくりに向けて**

郡上農林事務所農業普及課では、直売所出荷者に対する講習会を通じて、安全・安心な農産物づくりに取り組んでいる。

7月24日、今年度2回目となる郡上市青空市場連合主催の講習会が郡上旬彩館やまとで開催され、病害虫防除所から病害虫防除のポイントや農薬の適正使用について講習したほか、現地講習では、農業普及課から夏期取扱の多いスイートコーンの栽培管理と農薬の適正使用について説明した。特に、直売所出荷者は、同一ほ場で複数の作目を栽培することが多いため、現場で散布する際のドリフトの発生等に注意するよう強調した。

今回の講習会には、過去最多となる110名の会員が参加し、改めて安全・安心な農産物生産に取り組んでいくことを確認した。



【現地栽培講習会】

## 戦略的な流通・販売

### 可茂農林■夏秋トマト **フリーペーパーや出荷箱で産地をPR**

7月3日に、美濃白川夏秋トマト部会では、岐阜市・各務原市を中心に配布されているフリーペーパー岐阜「咲楽」の取材を受け、農業普及課も産地の案内を支援した。

これは部会と関連機関で連携して実施している「産地戦略会議」の一環で、出荷先の岐阜市近郊の消費者へのPR強化が目的である。美濃白川のトマト生産者の思いがより多くの消費者に届くことが期待されている。

一方部会では、7月4日に美濃白川の出荷目揃会・研修会を開催し、出荷規格の確認と市場との情報交換を行った。本年、出荷箱のデザインをリニューアルし、そのお披露目も行われた。デザイン変更の作業は、部会青年部で進められ、店頭でお客様に見てもらふ事を意識したデザインとした。研修会では、農業普及課から、これからの管理、特にここ数年問題となっている葉先枯れの対処方法や、出荷のピークに向けての作業の効率化についての提案を行った。



【紹介記事】



【新しい出荷箱】

## 多様な担い手育成・確保

### 恵那農林■集落営農 **山岡地区集落営農支援チーム員会議を開催**

農業普及課では、昨年度から関係機関による支援チーム員会議において恵那市山岡町における集落営農の推進方策等について協議を継続している。

7月6日、27日には恵那市山岡振興事務所において第2、3回支援チーム員会議を開催し、山岡町全体をとらえた集落営農の将来像について協議、再確認し、今後の推進支援について検討を行った。

今後、8月上旬に各営農組合、地域代表者等による「集落営農検討会」を開催し、組織再編に対する各組合の意向確認、今後の方向性について意識統一を図ることを確認した。

農業普及課では、今後も支援チームの関係機関との連携、支援内容の充実に向けた活動を継続する。



【支援チーム員会議】

## 飛騨農林■集落営農 飛騨市神岡町で担い手誕生～（農）流葉営農組合設立総会～

飛騨市神岡町伏方で7月24日、（農）流葉営農組合の設立総会が開催された。総会議事は賛成多数で承認され、地域農業の担い手としての法人が設立された。流葉営農組合は、昨年6月に設立された任意の集落営農組織であったが、今後の営農について検討を進める中で、農地集積を図り、水稻、そばの栽培を中心とする集落営農組織・担い手として活躍するためには、法人化が必要と判断され、農事組合法人の設立に至った。今後の発展に大きな期待が寄せられている。



【（農）流葉営農組合の船出】

農林事務所は、飛騨市等と連携して集落営農確立検討委員会に参画し、各種情報提供の他、法人化に関する助言を行ってきた。今後も法人の経営安定に向け、活動支援を継続する。

## 農業経営課■新規就農者 新規就農者研修施設に関する検討会を開催

農業経営課では、7月17日、23日、31日の3日間にわたり、夏秋トマトの新規就農者研修施設の設置を運営・計画している郡上、恵那、下呂、飛騨地域の各農協、関係市町村、関係農林事務所が参集し3ヶ所で地域別に検討会を開催した。



【検討会の様子】

今年度より研修が開始された飛騨トマト研修所を始め、それぞれの地域で特徴を活かした運営等が計画されており、研修施設の設置方法、研修カリキュラムや研修生の募集方法等、就農への支援体制等について進捗状況や今後の予定等について忌憚のない意見交換を行った。

今後も就農者研修施設の設置、運営に向けて様々な形で支援していく。

## 魅力ある農村づくり

### 東濃農林■鳥獣被害対策 多治見市で鳥獣害対策の拡大に向けた取組を実施

多治見市ではイノシシなど鳥獣被害防止のため、3月に2地区で国補事業を用いた恒久柵を設置し、本年度も3地区に設置予定であるが、それ以外にも直売生産や家庭菜園等が混在する農地向けに、自ら設置できる安全な防護柵と捕獲を含めた有効な対策の面的な拡大が課題となっている。

今年度は農業振興課の専門職、市担当職員と一体となり、管内では上半期10カ所、うち多治見市では5ヶ所を予定し、地域の防護柵・檻の設置状況や出没地点などのマップ作り、地域へのチラシ回覧から始め、それに基づき地域での鳥獣被害防止対策の研修会を計画する等の方針を作り、既に2地区では8月の研修会に向けて地域への声掛けを始めている段階である。



【防鳥網の簡易設置技術の実証圃場】

そのほか現地では、防鳥網の簡易設置技術の実証など、少しずつ具体的な取組を始めており、対策事例の情報収集ができれば、普及活動発表会等の機会を通じてより多くの人々への働きかけを行うことも考えている。

## 県民みんなで育む農業・農村

### 岐阜農林■えだまめ 第7回岐阜えだまめ収穫体験を開催

7月18日、第7回岐阜えだまめ収穫体験が開催され、開会セレモニーには、岐阜えだまめのイメージキャラクター「まめたん」のお披露目会が行なわれ、来場者からは「とてもかわいい」と好評であった。

当日は降雨のため、収穫体験は行えず、来客数への影響が心配されたが、準備した 5,000 株は 1 時間半ほどで完売した。これは、収穫体験を楽しみにしている消費者が多いことに加え、7 月 11 日のテレビ放映の反響や P R 効果の大きさを表すこととなった。農業普及課は、収穫体験の円滑な開催に向け、収穫体験ほ場の設置から、栽培管理、開催までの運営全般に関する指導を行った。

今後は、生産組織及び関係機関とともに、収穫体験全般についての反省点・課題を整理した上で、次年度の実施方針を決定する予定である。



【まめたんのお披露目】

## 揖斐農林■柿加工 保育園で「試作柿パン」給食を実施

大野町特産の柿を使った加工品を開発しようと、昨年度、農林事務所、大野町、J A いび川、大野町かき振興会で組織する「大野町柿加工品プロジェクトチーム」（チームリーダー：農業普及課長）が発足している。

プロジェクトチームでは、柿のピューレやパウダー、チップといった一次加工品の活用を検討しており、学校給食への利用について大野町学校給食センターへ協力を呼び掛けていた。給食センターでは、栄養士さんが中心となってメニュー開発に取り組み、今回、保育園で「試作パン」が提供されることとなった。

試作されたパンは、子供たちに人気のパインパンに柿チップを練り込んだもので、7 月 27 日に大野町公立保育園の園児に提供された。ほのかに「柿」の風味がするパンは子供たちに大人気で、柿をあまり好まないという子も「おいしい！」の声。今後、小学校や中学校にも広がり、地元の食材が活用されることを期待している。



【試作のパンと、おいしそうに食べる大野町西保育園の子供たち】